

日和佐町の分別収集について 説明資料

(1) 当時のゴミ問題の現状と問題点、またどういった取り組みをして解決したか。

現状 分別収集実施前は、もえるゴミともえないゴミの2種類の収集方法だった。
問題点 収集方法を全面的に変えなければいけなかった。
解決法 水曜日を分別収集の日として決めて、人員の増加、収集車の増車等を行った。

(2) モデル地区として事業を推進する上で、どこが難しかったか。
物理的な問題点の解消だけでなく、住民の心理的な壁をどのように解きほぐしていったか。

まず最初に、町内会会長さんに集まっていただき説明会を行った。
10種類の分別収集の品目の現物見本を見せて説明をしたが、
「こんなことができるはずがない。」
「町内会に持ち帰って説明することができない」と否定的・消極的で、
第1回目の説明会では、話しにならなかった。

婦人会、消費者協会の会合にて説明を行ったところ、
これくらいのことできない訳がないと肯定的・積極的であった。
今後の情報の発信先を女性に定め事業を進めていくことに決めた。
当然、町内会会長にも報告することは怠らないように心がけた。

その後、町内会長さんに再度集まっていただき、モデル地区の話をしたところ、
2人の女性が肯定的・積極的にモデル地区を引き受けてくださり、
心強かったのが、今でも記憶に残っている。

平成9年4月からのモデル地区での実施は、住民の心理的な壁を取り除いてくれた。
モデル地区へ町民や海部郡内からも視察に訪れてくれたことによって、実際のやり方が理解でき、10月からの町内全域実施をスムーズに開始することができた。

(3) 住民の理解を得るためにどのような苦労があったか。

会議を定期的に行い合意を得られるように努力した。
・海部美化センターと郡内の衛生主任者との協議
・ゴミ収集担当者と衛生主任者との協議

先進地視察の実施（香川県善通寺市等）
・町内会代表者、婦人会代表者、ゴミ収集担当者、衛生主任者等

各種団体の会合に積極的に参加し説明を行った。
・町長も説明会に参加し、分別収集への協力を求めた。

わかりやすい資料の作成に心がけた。
・ゴミ収集カレンダーの作成
・広報ひわさリサイクル特集号の発行
・写真広報リサイクル特集号の発行

(4) 組織づくり、仕組みづくりなどで苦労したことは。

町内全域で実施する際には、町内の分別収集ステーションに分別収集推進員を設置した。

町長も分別収集ステーションで一緒に分別収集を行った。

役場職員も住民。役場内も家庭と考え、役場内での分別も行った。
分別を行うに当たっては、全職員に対して説明会を行った。
軌道に乗るまでは、職員も1人配置し分別収集を実際に行い、
終了後、コンテナの数、問題点等を書き出して提出してもらった。

(5) 今日のごみ問題を効果的に解決するためのポイントなど。

ゴミ問題の効果的な解決については、子供の頃からの習慣となる教育が必要。
学校教育の社会科のプログラム等。

今回の徳島県環境教育・環境学習推進方針（仮称）の内容に期待したい。